

人間学研究所2009年度公開シンポジウム
「鬼の踊りから祈りの踊りへ 大道芸人・ギリヤーク尼ヶ崎 40年の軌跡」

京都文教大学人間学研究所は、文化人類学科・現代社会学科・臨床心理学科という3つのユニークな学科からなる大学の、共同研究を推進する機関です。学際的な知的交流の場として、独自企画による公開講演会・シンポジウム等を実施してまいりました。

今回は、日本の大道芸の草分けであり、「最後の大道芸人」とも称されるギリヤーク尼ヶ崎さんをお招きし、街頭で踊り続けて40年以上となるその芸歴をふりかえり、「鬼の踊り」から「祈りの踊り」へといたった軌跡を、ご自身の口から語っていただきます。

講師：ギリヤーク尼ヶ崎(大道芸人)
司会・聞き手：鶴飼正樹(京都文教大学人間学研究所所長)

ギリヤーク尼ヶ崎(本名 尼ヶ崎勝見)

1930年、北海道函館市に生まれる。邦正美舞踊研究所に学び、舞踊家として活動。1968年、38歳のときに、東京・数寄屋橋で、はじめて街頭公演をおこなう。以後、日本のみならず、フランス、アメリカ、ブラジル、韓国、中国など、海外での公演も数多くおこなってきた。「夢」「白鳥の湖」などモダンダンスを基本にした舞踊から、旅芸人をモチーフとした「じょんがら一代」「念仏じょんがら」まで、独自の舞踊の世界は、見る人を魅了してやまない。

1995年の阪神大震災の1ヵ月後に、被災地の長田区菅原市場で「念仏じょんがら」を踊ったことをきっかけに、踊りの本質が、「鬼の踊り」から「祈りの踊り」へと変容していったという。2008年には、街頭公演活動40周年を迎え、新宿で記念公演をおこなった。

司会・聞き手 鶴飼正樹

京都文教大学人間学研究所所長。社会学・大衆文化論専攻。大学院生時代に、研究のため大衆演劇の一座に弟子入りし、南條まさきの芸名で1年2ヵ月の間舞台に立つ。著書に、その時の体験をまとめた『大衆演劇への旅』(未来社)のほかに、『見世物稼業 安田里美一代記』(新宿書房)、『戦後日本の大衆文化』(昭和堂・共編著)、『京都フィールドワークのススメ』(昭和堂・共編著)など。現在、京都新聞紙上に「サムライ日本ショー ジョー岡田の見た戦後」を連載中。

日時：2009年5月30日(土曜日)13時～16時

入場無料・申込不要

会場：五條会館(五條楽園歌舞練場)

住所：京都市下京区西高瀬川筋五条下ル平居町

電話：075-351-0793

< 交通案内 >

市バス：河原町正面下車・徒歩3分 河原町五条下車・徒歩4分

京阪：清水五条駅下車・徒歩5分

阪急：河原町下車・徒歩10分

JR：京都駅下車・徒歩10分

京都市営地下鉄烏丸線：五条駅下車・徒歩10分